



スペシャルウイーク

小川隆行
ウマフリ

競馬 伝説の名勝負

1995-1999

90年代後半戦

黄金期の競馬は、

いよいよ頂点へ!

競馬史上「最強世代」が繰り広げた、
伝説の名勝負〈全26レース〉

エルコンドルパサー

マヤノトツフガン

エアグルーヴ

ほか

セイウンスカイ
グラスワンダー
スペシャルウイーク

競馬 伝説の名勝負

1995-1999

90年代後半戦

小川隆行 + ウマフリ

星海社

196



SEIKAISHA
SHINSHO

新世紀の足音が聞こえてきた、90年代後半。その幕開けである95年には阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件などが起こり、社会には言いようのない不安が流れていた。

しかし競馬界は90年代前半の熱気を受け継ぎ、さらなる盛り上がりを見せる。その矢先、日本競馬界に大きな旋風を巻き起こす、異次元の革命的種牡馬が登場した。彼が送り出したのは、ダンスインザダーク、サイレンススズカ、スペシャルウィークといった数々の精鋭たち。迎え撃つはフサイチコンコルド、サニーブライアン、タイキシヤトル、エルコンドルパサー、グラスワンダーら。彼らを中心に、今でも語られる名勝負が数えきれないほど生み出された。日本の競馬レベルが飛躍的に向上し、世界で戦えるようになり始めた分岐点。同時に、馬の多様な個性・魅力にスポットが当たり始めた時代でもあった。

世間を覆う不安を振り払うように、競馬界は加速する。歴史的な大接戦やマッチレースに震え、女帝誕生や天才のダービー制覇を祝福し、時には名馬の早逝に涙した90年代後半の競馬界を、ともに振り返ろう。

目次

1995年 オークス ダンスパートナー

悲願のクラシック制覇に向けて

出遅れ癖を荒療治した調教師 30

はじめに 3

コラム 特別寄稿 吉川良

競馬界を変えた革命的種牡馬

サンデーサイレンスと吉田善哉 36

第1章 革命的種牡馬がやってきた 1995年 9

1995年 有馬記念 マヤノトップガン

大舞台で繰り出した逃げ戦法

天才・田原騎手の投げキッス 10

1995年 桜花賞 ワンダーバヒューム

天才騎手が見せた仕掛けの妙と

予後不良↓安楽死の悲劇 18

1995年 皐月賞 ジュニユイン

90年代を席捲したサンデー産駒

最初のクラシック優勝馬 24

第2章 サンデー旋風が巻き起こる！ 1996年 43

1996年 天皇賞・秋 バブルガムフェロー

若手有望株を名手に押し上げた！

代打騎乗・蛭名正義の初GI制覇 44

1996年 阪神大賞典 ナリタブライアン

歴史的な大激戦を繰り広げた

流星VSシャドーロールの追い比べ 52

競馬note 1 JRA騎手・歴代勝利数トップ10 42

1996年 NHKマイルC タイキフオーチユン

クラブ法人「群雄割拠」の時代に
非クラシックを制した外国産馬 58

コラム2 特別インタビュー

沼田恭子（引退馬協会・代表理事）

ナイスネイチャが起こした奇跡

引退馬支援の新しい時代へ 88

1996年 日本ダービー フサイチコンコルド

サンデー王国の牙城を崩した

デビュー3戦目のダービー制覇 64

第3章 女帝が強豪古馬を打ち負かす 1997年 93

1996年 秋華賞 ファビラスラフィン

NHKマイルC1番人気大敗の雪辱

第1回の秋華賞を制した「マル外」牝馬 70

1997年 天皇賞・秋 エアグルーヴ

前年覇者との一騎打ちを力で制し

新しい時代の到来を高らかに宣言 94

1996年 菊花賞 ダンスインザダーク

菊の舞台に舞った衝撃の末脚

黄色と黒の閃光が貫いた最後の1冠 76

1997年 日本ダービー サニーブライアン

評価はどうでもいい、欲しいのは1着

史上最も期待されていなかった2冠馬 102

1996年 スプリンターズS フラワーパーク

わずか1センチ差の大激闘!

春秋スプリントGIを制した歴史的な勝負 82

1997年 安田記念 タイキブリザード

「ベストの距離がわからない」

名伯楽の基礎を作った「隠れ名馬」 108

1997年 有馬記念 シルクジヤステイス

サンデー旋風に待ったをかけた

ブライアンズタイム産駒の4歳馬 114

コラム3 特別インタビュー

予想界の重鎮 柏木集保（日刊競馬・解説者）

相性が良かったイナリワン

「ぼつり◎」を打ったブリテイキャスト 120

第4章 史上最強！ 98世代の激闘 1998年 125

1998年 日本ダービー スペシャルウィーク 125

天才が掴み取ったきっかけ

最強世代のダービー馬、誕生の瞬間 126

1998年 天皇賞・春 メジロブライト

クラシック惜敗馬の重賞4連勝

名手・河内洋の腕による覚醒 134

1998年 エリザベス女王杯 メジロドーベル

いつか女帝を超える日まで

逃げずに挑戦する勇氣 140

1998年 天皇賞・秋 オフサイドトラップ

悲劇と歓喜が交錯するゴール

脚元との戦いに勝利して掴んだ栄光 146

1998年 菊花賞 セイウンスカイ

幻と消えた大逃げの続きを淀で

世界レコードで駆け抜けた甲い合戦 152

1998年 マイルCS タイキシャトル

キャリア終盤で見せた最高のパフォーマンス

短距離馬初の年度代表馬に選出 158

1998年 ジャパンC エルコンドルパサー

出走制限がもたらした

空前絶後の「三強バトル」 164

コラム4 ある馬券師の生き様 梶山徹夫

日本ダービーで馬連1点100万円勝負!

生放送のテレビで誇示した「博打屋の矜持」

170

競馬note2 バラエティーに富んだ「花の12期生」

174

第5章 「栗毛」の怪物と呼ばれた外国産馬

1999年

175

1999年 有馬記念 グラスワンダー

同じ世代同士が激突した歴史的大接戦

驚異のグランプリ3連覇を成し遂げる

176

1999年 フェブラリース メイセイオペラ

「みちのくのオペラ」府中公演

地方から中央を制した唯一無二

184

1999年 日本ダービー アドマイヤベガ

2人の若武者と天才ジョッキー

前年のダービー勝利で手にしていたもの

190

1999年 菊花賞 ナリタトップロード

受弟子を信じた調教師

負け続けても乗せ続け、悲願のGI制覇

196

競馬note3 初重賞がGIだった個性派・大西直宏

202

年度別 GI戦線「激闘譜」&データ 203

おわりに 219

執筆者紹介 222

第1章 革命的種牡馬がやってきた

1995年

1995



1995年
有馬記念

マヤノトップガン

大舞台で繰り出した逃げ戦法

天才・田原騎手の投げキッス

どこまでもやわらかく、それでいて、ある種の確信に満ちていた。

クリスマス・イブの決戦となった1995年の有馬記念、マヤノトップガンと田原成貴騎手の、スタートからの出脚である。

外回りの3コーナーから出る中山2500mのスタート、4コーナーにかけての難しい先行争い。好発を決めた外のアイルトンシンボリ、内からじわりと主張するタイキブリザード。その2頭の雰囲気を見ながら、田原騎手はマヤノトップガンをスツとハナに導いた。それは、大河の流れに身を委ねるように、あまりにも自然な所作だった。

少しだけ行きたがる素振りを見せたマヤノトップガンだったが、田原騎手はその特徴的な長手綱を絶妙に加減し、行く気を抑える。16万人の大歓声の上がる1周目のスタンド前、マヤノトップガンは既に悠然としたステップを踏みながら、11頭を従えていた。

やわらかく全身を使い騎乗馬と一体となる、美しいフォームの田原騎手。当時36歳、騎手

生活も晩年に差し掛かっていたが、この1995年も桜花賞をワンダーパヒュームで、さらに菊花賞をマヤノトップガンで制するなど、その手綱捌きさばは円熟の極みに達していた。しかしその菊花賞では好位追走からの押し切り勝ちだったし、それどころかマヤノトップガンは有馬記念以前のレースで一度も逃げたことがなかった。にもかかわらずこの大舞台でハナを切るとは、どれほどの度胸——そして自信と計算が、田原騎手にあつたのだろうか。少なくとも、世間の評価よりもマヤノトップガンの力を信じていたことは、確かだったのだろう。

自己評価と、周りからの評価。その狭間で、人はいつも揺れる。

人は多くの場合、他人が見ているよりも低く厳しい評価を、自分に対して下してしまふ。もしくは、他者から言われた不当な意見や評価を、信じ込んでいたりもする。そのギャップは、本来の自分らしさを消し去ってしまう。結局のところ大切なのは、自分の価値や魅力、才能を、自分自身がどこまで受け容れられるか。そして過去の実績や他人の評価に囚われず、自分の持つ力をどこまで信じられるか。それに尽きる。それによって、世界の見え方も違ってくるのだろう。

この1995年の有馬記念で、ファンが支持したのは、前年の実績だった。

1番人気は前年の2着馬、ヒシアマゾン。類まれな豪脚を持ち、4歳牝馬にして有馬記念で歴戦の牡馬と混じってナリタブライアンの2着に入っていた。この年はアメリカへの遠征

を敢行するも、脚部不安があり出走せずに帰国。復帰後は秋のGⅡを連勝し、ジャパンCで日本馬最先着の2着に入るなど、牝馬ながら気を吐いていた。

そして、前年の覇者ナリタブライアンが2番人気。シンボリルドルフ以来、10年ぶりの三冠馬となって、同年の有馬記念では古馬を相手にせず、GI5勝目を挙げていた。しかし年明け緒戦の阪神大賞典を圧勝した後に、股関節の故障を発症。その影響からか、復帰後は精彩を欠き、天皇賞・秋12着、ジャパンC6着と続けて掲示板を外す惨敗を喫していた。

3番人気に同年の皐月賞馬で天皇賞・秋でも2着に入っていたジェニュイン、さらにその天皇賞・秋を制していたサクラチトセオー、そして超良血で期待されていたタイキブリザードが続いていた。マヤノトップガンは、それに続く6番人気という評価だった。

先行集団にはタイキブリザードとジェニュイン、ナリタブライアンはちょうど中団、ヒシアマゾンはその見える形、そしてサクラチトセオーは最後方から追走する態勢。

後続を離さず、突かせず、淡々と、そして粛々と。絶妙なペースで逃げを打つ、田原騎手。

1コーナーに差し掛かると、カーブを利してさらにペースを落として13秒台のラップを刻み、マヤノトップガンに息を入れさせる。そうかと思えば、向正面に入ると徐々にペースアップし、幻惑のラップを刻んでいく。

道中からじりじりとポジションを上げてきたのは、ナリタブライアンと武豊騎手だった。

馬群が縮まっていく中、抜群の手応えで2、3番手まで押し上げて4コーナーに差し掛かる。しかし、先頭を往く田原騎手の手綱は、まだ動いていない。

——最後の直線に入り、ようやく追い出されたマヤノトップガン。田原騎手が躍動する。弾けた。後続との差を一気に広げていく。

その一完歩^{*}、一完歩が、過去と実績を葬り、未来へと刻むステップだった。

過去の実績も、誰かの評価も、いまここには無い。

信じよ、己が力を、才能を。信じよ、己が偉大さを。

マヤノトップガンが、逃げ切った。菊花賞に続いているの、GI連勝。

2着に粘り切ったタイキブリザード、そして追い込んできたサクラチトセオーが3着、ナリタブライアンは直線伸びきれず4着まで。そしてヒシアマゾンも後ろからよく差を詰めたが5着と掲示板を確保するのが精一杯だった。

その強さが際立つ逃げ切りに、どよめきが残るスタンド。田原騎手は馬上で投げキッスのサーブス、そして高々と右手を上げ、その喜びを表現する。

やわらかく、それでいて確信に満ちた出脚は、2周目には希望に満ちた末脚へと変わっていった。その末脚は、観る者に何度も語りかける。

己を信じよ、と。

(大寄直人)

*一完歩 馬の歩幅。距離にして7~8メートル



菊花賞優勝後GIを3勝。史上最強の上がり馬と言って差し支えない名馬だ。

名種牡馬ブライアンズタイムの2年目の産駒。同世代のブライアンズタイム産駒として唯一の芝重賞馬だが、マヤノトップガンのラストランとなった天皇賞・春の翌週に武豊・エムアイブランがアンタレスSを勝利、そこから3年かけてダート重賞4勝をあげた。ブライアンズタイムは初年度産駒ナリタブライアンに続き大物を輩出したことで人気を博し、時代を築き上げた。マヤノトップガンは種牡馬としてGI馬は出せなかったが、母父としてジャパンダートダービー勝ち馬キャスルトップを輩出した。

マヤノトップガン

性別 牡

毛色 栗毛

生誕 1992年3月24日

死没 2019年11月3日

父 ブライアンズタイム

母 アルプミーブリーズ(母父・Blushing Groom)

調教師 坂口正大(栗東)

生産成績 8-4-5-4

獲得賞金 8億1039万円

勝ち鞍 菊花賞 有馬記念 宝塚記念 天皇賞・春 阪神大賞典



第40回有馬記念(GI)

芝右2500m 晴 良 1995年12月24日 9R

着順	枠番	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム	着差	人気
1	7	10	マヤノトップガン	牡	4	55	田原成貴	2:33.6		6
2	2	2	タイキブリザード	牡	5	57	坂本勝美	2:33.9	2	5
3	1	1	サクラチトセオー	牡	6	56	小島太	2:34.0	1/2	4
4	6	8	ナリタブライアン	牡	5	57	武豊	2:34.1	3/4	2
5	6	7	ヒシアマゾン	牝	5	55	中館英二	2:34.6	3	1
6	8	11	アイルトンシンボリ	牡	7	56	加藤和宏	2:34.7	1/2	9
7	4	4	ロイスアンドロイス	牡	6	56	横山典弘	2:34.8	3/4	8
8	3	3	ゴーゴーゼット	牡	5	57	村本善之	2:35.4	3.1/2	7
9	5	5	ナイスネイチャ	牡	8	56	松永昌博	2:35.4		ハナ 10
10	5	6	ジェニユイン	牡	4	55	岡部幸雄	2:35.5	1/2	3
11	8	12	アイリッシュダンス	牝	6	54	柴田善臣	2:35.7	3/4	12
12	7	9	イブキタモンヤグラ	牡	4	55	河内洋	2:35.8	3/4	11

第40回有馬記念(GI)

芝2500m

1995年12月24日(日)

中山9R

中山 9 (GI) 有馬記念 (第40回)

◆ありまきねん
ン投票選出馬中心のフ
ス有馬記念氏記念
(サラ4歳上) ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

番	馬名	性齢	指	川馬	馬場内	人気	水多	乗本	紙境	騎手と勝負服	重	騎手	騎手成績	きゆう	う	舎	本	賞	金	金	金
33	サツカーボーイ					13	△				57	本村	5116	新井	④	9,610	④	23,050			
22	タイキブリザード					54	△△△△△	△△△△			57	坂本	2201	藤沢	⑥	7,050	⑥	7,700			
11	サクラチトセオー					41	△△△△△	△△△△			56	太田	8328	勝	⑥	22,130	⑥	47,810			

理想展開
芝2500m
坂本 57歳
藤沢 57歳
太田 56歳

12	8	11	10	7	9	8	6	7	6	5	5	4	4
ピュートリックス(輸入)リッファール	ブルーエスケープ(輸入)ヌレイエフ	シンポリドルフ	マヤノトップガン	イブキタモンシヤクラ	ナリタブライアン	ヒシアマゾン	ジェニユイン	ナイスネイチャ	ロイスアンドロイス				
5	19	29	14	62	80	74	5	30					
△△△	◎△△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
													
54柴田	56加藤	55田原	55河内	57武	55中館	55岡部	56松永昌	56橋山典					
8104	0010	3230	2005	0001	10401	3401	76714	1033					
栗田	稲山	大坂正	長浜	大久保正	中野隆	松山	水善	松山					
9,800	13,080	9,270	2,450	36,650	32,600	12,970	17,360	3,240					
21,600	39,028	19,129	8,520	74,410	66,050	26,490	61,240	20,094					
吉田照哉	シンポリ	田所祐	伊吹	山路秀樹	阿部雅一郎	社台RH	豊島泰三	藤テンジ					
1.48.6	1.38.8	1.49.8	1.49.0	1.47.5	1.34.2	1.48.9	1.45.1	1.47.5					
1.59.4	1.58.9	1.59.8	2.01.6	1.59.0	2.00.0	1.58.8	1.59.0	1.59.9					
2.16.4	2.31.0	3.04.4	3.04.9	2.32.2	2.32.7	2.27.5	2.31.1	2.35.5					
長辛重	長辛重	長辛重	長辛重	長辛重	長辛重	長辛重	長辛重	長辛重					
0221	4121	1000	0100	4141	3230	0221	2201	0101					
1110	3100	1100	0000	1001	2020	1110	2200	3460					
0000	0310	0100	0000	0000	0000	0000	4130	1110					
0222	9220	0100	2330	1101	0100	0000	4130	332					

日刊スポーツ新聞社

強豪を相手に逃げ切った菊花賞馬

この年のファン投票は1位ヒシアマゾン・2位ナリタブライアン・3位サクラチトセオー・4位ジェニユインで10位にマヤノトップガン。当日の人気もほぼこの順位通りとなったが、ハナを切ったマヤノトップガンの脚色は衰えず、前年覇者ナリタブライアンとの差はみるみるうちに広がり、強者たちに影さえ踏ませなかった。「上手く自分のペースで行けました。来年は競馬界の王道を歩いていきたい」と田原騎手は語った。

特別インタビュー

沼田恭子（引退馬協会・代表理事）

ナイスネイチャが起こした奇跡

引退馬支援の新しい時代へ

2021年春、ナイスネイチャにまつわる支援で起こった奇跡が話題になった。引退馬支援のクラウドファンディング『ナイスネイチャ・33歳のバースデードネーション』で、目標だった300万円を大幅に超える35,829,730円もの支援が集まったのだ。これは目標の約12倍にもなる金額である。その寄付先は、認定NPO法人引退馬協会。ナイスネイチャら多くの引退馬を支える、日本における引退馬支援の先駆的存在である。

代表理事・沼田恭子さんは、引退馬支援の黎明期を築いてきた活動を「その時に『いま足りない』と感じたものを補いつけてきた」と振り返る。

「引退馬協会は、1997年に『フォスターペアレント（里親制度）』を立ち上げ、1頭の引退馬をみんなで支えようというところからスタートしました。当時はまだ馬を身近に感じているファ

ンが少ない時代です。そうした方々に向けて、ふれあいの時間などを作っていくところから始めました。お手入れや乗馬の体験を通じて『馬は生きている』『馬に触れると温かい』というのを実感してもらうためです。最初は人も集まらずに苦戦が続きましたが、5年ほどたって少しずつ手応えを感じるようになりました」

この活動のきっかけは、沼田さん自身の経営する乗馬クラブで感じた想いにある。「この子も乗馬としては使えないな」という状態になった馬をセオリ―通りに業者に引き取ってもらうことを「イヤだな」と感じたという。歴史に残るような特別な馬でなくとも「一生、ここにいていよ」という馬がいても良いはずだ――乗馬としての良し悪しではなく、何をしても認められる馬が必要だ。そこで、里親制度に辿り着いた。

「当時がインターネットの黎明期だったことも良かったと思うのですが、WEB上で呼びかけるとすぐに50人ほどの賛同者が集まりました。最初に支援する馬として決まったのはグラールストーン（ナイスネイチャの弟）。とは言っても、元々何か繋がりがあった馬というわけではありません。他の馬も候補にあがっていましたし、この馬を選んだことも深い考えがあつたものではありませんでした。ただ、賛同者の中に取り次いでくれた方がいたので、この馬にしてみようかな、とおかげで、その後多くの引退馬を見てくださる渡辺牧場さんや、現在も引退馬協会理事をしていただいている漫画家・やまさき拓味先生たちと縁ができました」

その縁は、さらに次なる縁へと繋がっていく。

それは、グラールストーンの兄であるナイスネイチャが種牡馬を引退した後のこと。種牡馬としては大成しなかったナイスネイチャは、母であるウラカワミユキとともに牧場に帰っていた。「誰かが面倒を見てくれるならば嬉しいけど、このままだと寿命までは…」という状況だったことから、母と息子を一緒にフォスターホースにという話が上がった。

引退馬協会で支援を開始すると、ナイスネイチャは現役時代のネームバリューを存分に発揮。引退馬協会の宣伝部長とも呼べる存在となった。ファンにとっては、ナイスネイチャに会いに行けるというのはインパクトが大きいものだった。中には「仕事のモチベーションにも繋がった」という声も聞こえてくるほどだった。

「ブロンズコレクター、人間味がある馬として応援していたという人が多いんです。引退馬協会としても非常に恩のある馬ですね。おかげで、里親会員さんも増えました。ナイスネイチャ自身は最初、いわゆる『オレ様系』で、1頭での放牧が多いタイプでした。でも年齢を重ねるうち、馬を恋しがるようになったんです。私たちもその想いに応えるべく、柵越しに馬を置くなど試行錯誤していききました。すると『この馬なら大丈夫』という馬が出てきて、今はすごく相性の良い馬と仲良く過ごせるように。日々の放牧もそれまで以上に充実しました。これは、彼が長生きしている上でも大きな糧となっていることでしょう」

過去にはタブー視されていた、引退後の競走馬の行き先を見守るということ。しかし、近年では徐々にそうした風潮が開かれてきている。

「90年代後半といえば、名馬サイレンススズカが予後不良となった衝撃の事故をきっかけに、馬の死を目の当たりにした人が増えていった印象があります。あの頃、競走馬の寿命は20歳程度だというのが定説でした。でも実は、人間がそう思い込んでいただけだったんです。何故ならば、天寿を全うする馬がほとんどいなかった……。今は27歳前後が寿命と答えられるほど、データが蓄積できました」

冒頭で紹介したナイスネイチャ支援クラウドファンディングでの奇跡は、人気ゲームの影響によるもの。そのパワーは、爆発的なものだった。それまで競馬ファンに対して認知を広げようとしていたが、ゲームをきっかけに競馬を離れたファンや実際の競馬を見たことない人からも寄付が集まるようになった。沼田さんは「こういう形で『引退馬』という存在の社会的知名度があがったというのは、非常にありがたい」と語る。もちろんデメリットを語る人もいるが、それ以上のメリットがあったと分析する。

「少なくとも『優しい気持ちを持っていただけにいるな』と感じますので、真正面から向き合っていきたいですね。昨今は引退馬がビジネスになると考える層も現れるようになってきました。ボランティア精神の時代から比べると大きな変化です。ただ、馬は1頭1頭が別の馬。50頭いれ

ば50頭同じ道ではなく、それぞれの道を切り開いてあげることです。幸せになっけていけると思っています」

引退したばかりの馬というのは、健康診断をすると大抵どこかに不調が出ていそうだ。まずは腰や靱帯の不調を直してから、個々の性格に向き合っていく。乗馬向きのタイプや気が強いタイプなど、それぞれで道は違う。

「引退馬支援といっても、玉石混交です。全てが同じ方向を向いているわけではありません。支援をしたいと思つた方には、しっかりその支援先の活動を見極めていただけたらと思います」

広がりゆく引退馬支援。ナイスネイチャの届けた奇跡を、これからも繋げていく。

(聞き手・緒方きしん)



ぬまた・きょうこ

NPO法人「引退馬協会」代表。1997年に前身となる「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」を設立して以降、日本の引退馬支援の先駆者として様々な活動続ける。





ス。ペシヤルウイーク

天才が掴み取ったきっかけ

最強世代のダービー馬、誕生の瞬間

サッカー元日本代表の本田圭佑選手は、とある試合後インタビュで「ゴールはケチャップみたいなもの。出るときはドバドバ出る」と答えた。一方で競馬は、大きなトラブルや不幸が起きない限り、全ての馬がレースの度にゴールする。どう走っても、どんな着順でもゴール。シュートを打ち続ける必要はない。しかし、競馬にも「決定打」は存在する。それは勿論1着という結果ではあるのだが——その中でも特別な1勝がある。それが、ダービーでの勝利だ。ダービーを先頭でゴールした騎手は「ダービージョッキー」と称えられ、勝たなければ他でいくら優秀な戦績を残そうともその称号を得ることは叶わない。

1998年当時、既に競馬界の「若きエース」として君臨していた武豊騎手は、圧倒的な実績を残しながらも、不思議とダービーで負け続けていた。90年ハクタイセイで5着、93年ナリタイシンで3着、96年ダンスインザダークで2着。フジノマッケンオーやランニングゲイルでも掲示板に食い込みながら、栄冠には届かない。ファンの間では「武豊はダービー

を勝てない」という不名誉なジンクスも囁かれた。

今になって考えると当時29歳だった若武者に対して、騎手人生のうちの最初の数年間敗れただけで、まるで「シュートを外し続けている」というような表現をするのも酷な話である。しかし、88年に史上最年少でクラシック制覇（菊花賞）をして以来、天皇賞の春秋制覇、93年クラシック三連勝（桜花賞・皐月賞・オークス）、JRA所属騎手として初の海外GI制覇など数々の記録を打ち立ててきたスターに対して、世間の期待値はあまりにも高かった。

そして迎えた98年クラシック。当時のクラシック戦線は「三強」で盛り上がっていた。スペシャルウィーク、セイウンスカイ、キングヘイローの3頭である。その3頭は皐月賞の前哨戦・弥生賞で早くも激突すると、1着スペシャルウィーク、2着セイウンスカイ、3着キングヘイローの順で決着。武豊騎手の相棒は、その弥生賞の覇者スペシャルウィークであった。クラシック一冠目の皐月賞でスペシャルウィークは1・8倍の1番人気に推されたものの、結果は3着。横山典弘騎手・セイウンスカイの積極策に敗れた形となった。しかし、迎えたダービーで、競馬ファンはスペシャルウィークと武豊騎手を再び1番人気に推した。

それは期待か、信頼か、欲望か——さまざまなファンの思いが交錯する中、優勝18頭がダービーのゲートに入った。

レースが始まると、デビュー3年目の福永祐一騎手とキングヘイローが飛び出す。彼らに

とつては明らかなオーバーペースで、彼の若さが出た騎乗だった。それに連れられるように、セイウンスカイも好位につける。皐月賞を2番手から制した同コンビは、その再現をすべく2番手を追走した。武豊騎手とスペシャルウィークは中団やや後方で待機。直線での勝負にかけた騎乗。府中の直線は長い。必ず届くという思いが伝わってくる。

直線に入ると、早くもキングヘイローが沈み、セイウンスカイが先頭に立つ。しかしその後方からスペシャルウィークが強襲すると、並ぶ間もなく独走態勢となった。すでに直線半ばで、セーフティリードを保っていた。

2番手に追い込んできたボールドエンペラーも、その末脚に全く追いつきそうにない。

しかしそれでも、29歳の武豊騎手は追い続けた。広がるリードも気にせず、スペシャルウィークとともに、必死にゴールを目指したのである。ゴールまで確定することはない「ダービージョッキー」「ダービー馬」の称号のために。後方で2着争いが繰り広げられる中で、スペシャルウィークは5馬身差の勝利を収めた。圧勝、完勝だった。上がりは、2番手ボールドエンペラーの36秒1に対し、スペシャルウィークは35秒3。必要以上の末脚だったことは、着差やタイムから明らかである。あのクールな若者が最後まで追い続けた姿は、ダービーという決定打がいかに絶対的なものなのかを如実に物語っていた。何度も繰り返された力強いガッツポーズが、観衆の目に焼き付いた。

その後、スペシャルウィークは引退までの間に7度GIに挑戦する。天皇賞の春秋制覇、ジャパンCでも勝利するなど世代を代表する活躍を見せた。しかし一方で、菊花賞ではセイウンスカイに、一度目のジャパンCではエルコンドルパサーに、宝塚記念・有馬記念ではグラスワンダーに敗れた。上記3頭は、いずれも同期生だった。

当時は外国産馬がダービーに出られない時代である。凱旋門賞で2着となったエルコンドルパサーも、グランプリ3勝馬グラスワンダーも、英仏GI馬アグネスワールドも快速馬マイネルラヴも、ダービーへの出走権を有していなかった。現行のルールであれば、上記の馬たちはダービーに出走可能であり、展開は変わっていただろう。また、今ではダービー3勝騎手である福永騎手が現在の冷静沈着さをもって騎乗していれば、キングヘイローが勝たずともレースの流れは違ったはずだ。運命が天才に微笑みかけたのかもしれない。

武豊騎手は、それまでの鬱憤を晴らすかのように、それからダービーを連勝。さらにディープインパクト、キズナで親子によるダービー制覇も達成した。今では日本競馬史上最多のダービー5勝を挙げた「ダービー男」となっている。前人未到の大記録だ。天才にとってこのゴールは、きっかけさえ掴めばドバドバと出るものだったのだろう。その決定的瞬間——まるでケチャップが出始めたかのような記念すべき一戦が、この98年日本ダービーである。

(緒方きしん)



のちにダービー5勝を挙げることになる天才騎手の初戴冠は「10度目の正直」。

4代母は、ダービー2着の名牝シラオキ。シラオキは引退後牝系を広げ、^{*}顕彰馬コダマ、桜花賞馬シスタートウショウ、菊花賞馬マチカネフクキタルらを輩出している。スペシャルウィークは生後間もなく母を失う不幸に見舞われるが、デビューすると鋭い末脚を武器に馬券圏外となることなくダービー制覇。5歳ジャパンCではモンジュールから欧州の一流馬を相手に勝利を収めた。引退後はシーザリオ、ブエナビスタ、トーホウジャッカルらを輩出、母父としてもエピファネイア、サートウルナーアラを輩出。文字通り日本競馬史に名を残した。

^{*}顕彰馬 JRAの発展に多大な貢献を果たした競走馬を称える制度＝競馬の殿堂。ディーピンバクトやシンボリルドルフなど34頭が顕彰されている

スペシャルウィーク

性別 牡

毛色 黒鹿毛

生涯 1995年5月2日

死没 2018年4月27日

父 サンデーサイレンス

母 キャンペンガール(母父・マルゼンスキー)

調教師 白井寿昭(栗東)

生涯成績 10-4-2-1

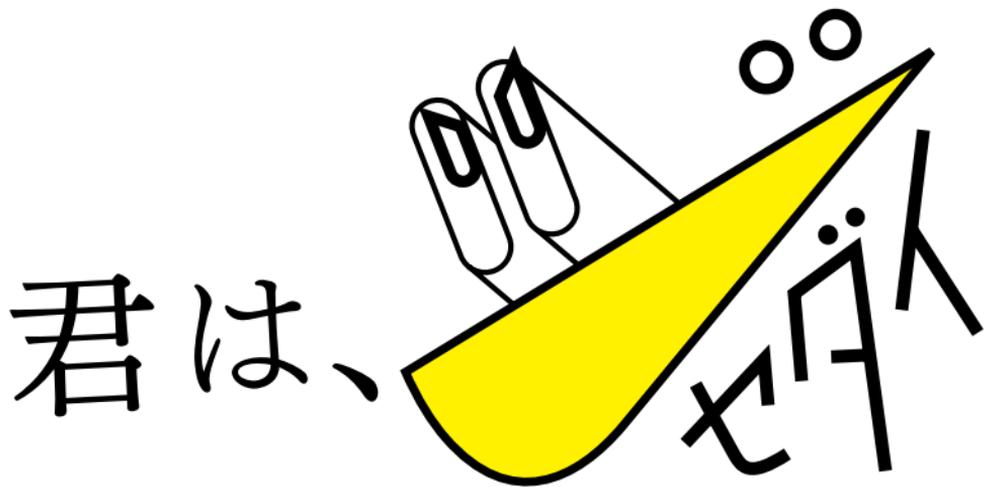
獲得賞金 10億9262万円

勝ち鞍 日本ダービー 天皇賞・春秋 ジャパンC 弥生賞
京都新聞杯 AJCC 阪神大賞典 きさらぎ賞

第65回東京優駿(GI)

芝左2400m 曇 稍重 1998年6月7日 9R

着順	枠番	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム	着差	人気
1	3	5	スペシャルウィーク	牡	4	57	武豊	2:25.8		1
2	8	16	ボールドエンペラー	牡	4	57	河内洋	2:26.7	5	14
3	7	15	ダイワスペリアー	牡	4	57	菊沢隆徳	2:26.8	1/2	15
4	6	12	セイウンスカイ	牡	4	57	横山典弘	2:26.8	ハナ	3
5	6	11	ミツルリュウホウ	牡	4	57	南井克巳	2:27.0	1.1/4	10
6	5	9	メジロランパート	牡	4	57	吉田豊	2:27.0	アタマ	8
7	8	17	ディヴァインライト	牡	4	57	橋本広喜	2:27.2	1.1/2	9
8	2	3	タヤスアゲイン	牡	4	57	柴田善臣	2:27.4	1	7
9	7	13	エモション	牡	4	57	松永幹夫	2:27.6	1.1/4	6
10	4	8	エリモソルジャー	牡	4	57	四位洋文	2:27.8	1	11
11	2	4	タイクブライドル	牡	4	57	岡部幸雄	2:27.8	ハナ	4
12	4	7	シャインポイント	牡	4	57	藤田伸二	2:28.0	1.1/4	17
13	5	10	センターフレッシュ	牡	4	57	角田晃一	2:28.3	2	5
14	1	2	キングハイロー	牡	4	57	福永祐一	2:28.4	クビ	2
15	8	18	クリールサイクロン	牡	4	57	蛸名正義	2:28.8	2.1/2	13
16	7	14	エスパシオ	牡	4	57	後藤浩輝	2:29.5	4	12
17	3	6	ミヤシロブルボン	牡	4	57	大塚栄三郎	2:29.8	1.3/4	16
18	1	1	ビルドアップリバー	牡	4	57	加藤和宏	2:30.2	2.1/2	18



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!